

勝利の歌

(迎歌)

一、秋揺落の風に立ち

流るる雲を縫ふ光

頭にまとい双肩の

力虚空をつんぎくか

二、五十鈴湖畔にきたえたる

いざ鞭あてて勇ましく

腕を振ふはこの時ぞ

安高選手に勝つべきか

三、勝利を告ぐる関の声

天下の粹ぞと仰がれて

安積山上秋月高く

輝く選手のその勲